

○確かな学力を身につけ、「今の自分以上」をめざす児童の育成
～協働的な学習と個別最適な学びを融合した授業の実践～

学力向上推進員 教務主任 伊勢 あい	委員
	校長 赤澤 泰志、 教頭 絆地 亜由美、 教務主任 伊勢あい、 特支コ 中瀧由紀
	体育主任 米澤夏輝、 生徒指導 山川 友貴、 人権主事 岩崎 順子
養護助教諭 新居 菜月	

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組む児童が多く、基礎的・基本的な知識・技能が身に付きつつある。 ●漢字の定着が難しく、文章中で正しく読んだり書いたりすることに課題がある。	・読み書きや、計算の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・漢字テスト(年3回)で正答率80% ・算数の各単元テストで正答率85%以上	・朝の活動の時間を活用し、漢字・計算などの学習を継続して行う。 ・授業の始めに漢字・計算小テストを繰り返し行ったり、学習アプリを使用したりすることで、単元ごとの復習を定期的に行うようにする。	・既習の四則計算が正しく活用できるよう、タブレットのアプリで計算練習を行う宿題を出し、計算の定着を図る。	・漢字テストではどの学年でも正答率80%以上とることができた。 ・タブレットのアプリで計算練習を行う宿題を出したことで、計算問題のケアレスミスが減った。	・単元後にも復習プリントを渡すようにし、定着を図る。 ・タブレットアプリを活用し、既習の四則計算を練習する時間をとるようにする。 ・月に1回あわスタや NIE を活用する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを伝えようとする意欲が見られ、ICT の活用により多様な表現方法を身につけた児童が多い。 ●語彙が少ないため、自分の思いや考えをまとめて、相手にわかりやすく表現することに課題がある。	・目的や条件に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、文章に書くことができる。(授業後の振り返り: 上学年3～4文程度・下学年2～3文程度) ・多様な表現方法を知り、自分に合った表現ができる。	・自分の考えを文章でまとめたあとに、より深い学びに繋げられるよう、発表したり説明したりする機会を設ける。 ・ICT を効果的に活用し、多様な表現方法ができるようにする。	・自分の考えを分かりやすく伝え合うことができるよう、どの教科の授業でも、説明したり考えを伝え合ったりする場面を多く設定する。 ・思考ツールを活用し、考えたことが整理しやすいようにする。	・どの教科の時間でも、説明したり考えを伝え合ったりする場面を多く設定したことにより、自分の考えをグラフや表、文章等で自分なりに分かりやすく伝えることができる児童が増えた。 ・児童自身が考えをまとめたり整理するとき、思考ツールを使うことのよさを感じさせることができた。	・各教科の学習では、児童の身近にある出来事や関連する題材を扱い、児童の気づきや疑問から、課題を設定する授業を行う。 ・より深い学びに繋げるために、友達の考えと自分の意見を比べたり、似ているところを伝え合ったりする機会を設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組みることができる。 ○すすんで読書に取り組むことができる。 ●見通しをもちづらいため、興味・関心をもち続けて学習ができない児童がいる。	・各教科の学習を見通しをもって取り組むことができる。 ・課題に対して興味をもったり、疑問を感じたりしながら学習に取り組むことができる。	・主体的に学習に取り組む力を育むため、授業の流れを示すなど、児童が見通しをもって学習できるように全校で統一して取り組む。 ・児童の生活場面と結びつけた問題や課題設定を積極的に行う。 ・隔週で自主学習や、選択課題をするようにし、児童の興味関心や課題に合わせた家庭学習が行えるようにする。	・児童が作成した成果物を共有する時間を設定し、次回の自分の課題に繋げることができるようにする。 ・単元始めに終末の活動を示したり、既習内容を振り返りながら問題に取り組ませたりすることで、児童が見通しを持って学習できるようにする。	・単元のはじめにゴールを示したり単元の流れをあらかじめ児童に伝えたりすることで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。また、児童の生活場面から課題を設定する授業作りを行ったことで、興味や関心を継続しながら学習を進めることができてきた。 ・タブレット端末を活用したり、自分自身で課題を決める選択課題や自主学習ノートの家庭学習に設定したりすることで、家庭学習への意欲を高まったことで、学校アンケート結果では、昨年度よりも家庭学習の習慣が身に付いていると回答した割合が増加した。	・児童の自主学習での成果物を、学校全体で共有したり、交流したりすることで、興味関心の幅をさらに広げることができるようにする。

